

24時間見守り、異変はLINEやメールで通知

センサーで子牛の健康管理



首輪に黄色いセンサーを装着した子牛（さらべつカーフセンターで）

同社によれば、生後6カ月未満の子牛の死亡率は5〜6%。道内では年間5万頭強にも及ぶ。短時間で体調が急変することもあり、人がいない夜間の見守りなどが課題となっている。

同センサーは子牛の首輪に軽量で小型のセンサー(タグ)を装着するシステム。それらの子牛の平常時の活動を基準とし、1時間ごとに測定する。活動が低下すると危険アラートが出て、EメールやLINEに「赤(危険)」「黄色(要注意)」の通知が来る仕組み。パソコンやスマートフォンに活動量のグラフが表示

管内の導入農家に好評

下痢や風邪などの病気にかかりやすい子牛の健康を24時間見守るシステムが注目を集めている。ライブストック・アグリテクノ(本社さいたま市)の子牛用センサー「アットモーメント」は、子牛の運動量を測定し、健康状態に異変があれば通知する。十勝管内の利用者からも好評だ。

「JA全農と全農畜産サービスは昨年5月から、同機器の普及推進に取り組んでいる。農事組合法人さらべつカーフセンター(更別村)では、昨年8月にセンサー70個を導入。約650頭を扱う中、生後1カ月半ごろまでの子牛に装着している。

高崎潤副場長は「子牛の不調の早期発見はとても重要。牧場で働く新人にとっては、センサーの通知が非常に参考になる」と話す。適切な抗生物質の投与にもつながっているとし、「人の感覚だと過剰に与えてしまう。抗生物質の量はセンサー導入前に比べて半減したが、現状で大きな問題は無い」とする。

センサーで子牛の調子がある程度把握できるため、同センターではその分の労力を消毒や牛舎の清掃、餌やりに費やす。高崎副場長は「牛の健康面の好循環につながっている」と手応えを示す。

希望小売価格(税別)はセンサー1台の初期費用が1個当たり1万2500円(利用料月額4500円)、受信機は初期費用29万8000円(同65000円)、センサータグ装着用首輪が1本当たり3500円。

詳細については製品ホームページのQRコードで問い合わせは



製品ホームページ
QRコードで

問い合わせは
同社(048・711・6065)へ。(松村智裕)



1436号